

クリエイター・アーティストの支援、 活動環境の整備、海外展開支援について

文部科学省提出資料
令和 6 年 6 月 2 7 日

クリエイター・アーティスト支援と海外展開の戦略全体構想

優れた業績をあげた芸術家の顕彰

R5から芸術選奨の枠を拡充し、
メディア芸術などの受賞者増・プロモーション強化
(R4受賞枠30名→R5受賞枠48名)

我が国の文化芸術の芸術性・
創造性の向上

海外市場でのビジネス展開へ

経済産業省

外務省

連携

グローバルな評価形成

価値付け

CBX (Cultural Business Transformation)
の観点から、文化庁が国内で育成支援した
海外で活躍が期待される若手クリエイター・
アーティストなどを戦略的に選抜。
世界で高い評価を得ることを目標とする。

グローバルに活躍する
人材の輩出

クリエイター等育成・文化施設
高付加価値化支援事業
(基金)

文化庁人材育成事業

メディア芸術人材育成事業

新進芸術家の海外研修

「土壌」づくり

若手映画作家等育成

芸術家等人材育成（舞台芸術）

＜事業の対象となる分野（イメージ）＞

区分	分野
舞台芸術	音楽 (オーケストラ、オペラ、 ポピュラーミュージック等)
	舞踊 (バレエ、現代舞踊等)
	演劇 (現代演劇、ミュージカル等)
	伝統芸能・大衆芸能 (歌舞伎、文楽、邦楽、落語等)
メディア 芸術	マンガ
	アートアニメ
	ゲーム
	メディアアート
	映画
	実写映画
	アニメ映画
	現代アート
	分野横断の新領域

海外展開の方向性 クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業

- 次代を担うクリエイター・アーティスト等を育成するとともに、その活躍・発信の場でもある文化施設の次世代型の機能強化を、独立行政法人日本芸術文化振興会に設置する基金を活用して弾力的かつ複数年度にわたって支援。（令和5年度補正予算 3年・60億円）
- また、今後、骨太の方針2024を踏まえ、一貫的で強力な支援を行うため、文部科学省及び経済産業省の関連する施策をクリエイター支援基金に統合。

1 海外のニーズを踏まえた展開における若手育成

- 海外のニーズを踏まえた新作・新制作・演出等における若手登用（実演家、作曲家、脚本家、演出家、監督、プロデューサー等の育成）
- ターゲットを設定した交渉・プロモーション・分析（ネット含む）（コーディネーター、スタッフ等海外との交渉担当者等の育成）

2 世界的認知度が高い場での展開・評価

- 世界的な音楽祭・芸術祭、映画祭・フェスや劇場・音楽堂、美術館・博物館等との交渉による公演・展示活動の実現
- 海外・国内の批評家、専門家等の招聘・派遣による高評価獲得（当該分野の専門家・批評家、代表的なメディア等の招聘）

3 戦略的な海外展開ネットワーク形成 ・人脈づくり

- 現地の人脈を生かしたプロモーション、要人等招聘（外務省、国際交流基金、JETRO等へ協力依頼。現地の邦人・企業関係者ネットワークの活用）
- ショーケース・ワークショップ等に文化担当関係者（在外・在京大使館・記者等）などを通じた事業提携・人材交流・拠点形成などへ

クリエイター等育成事業の採択状況（6月25日採択結果発表）

アニメ制作会社が連携した意欲的な取組や、ポピュラーミュージックとアニメのコラボ企画、国際的な芸術祭への参画などの、従来では申請がなかった取組を積極的に採択。（採択件数29件／応募総数120件）

区分	分野	採択件数（補助型と委託型の総計）
舞台芸術	音 楽	4 件（オペラ、ポピュラーミュージック、オーケストラ等）
	舞 踊	3 件（バレエ、現代舞踊等）
	演 劇	5 件（現代演劇等）
	伝統芸能・大衆芸能	3 件（歌舞伎、文楽、邦楽等）
	舞台芸術等	1 件（舞台芸術総合）
メディア芸術	メディア芸術	7 件（マンガ、アニメ、ゲーム、実写映画、メディアアート等）
現代アート	現代アート	2 件（現代アート、写真等）
分野横断的新領域		4 件

〔海外展開先の具体例〕

【マンガ・アニメ分野】 アニメエキスポ（米）等の世界規模で開催されるコンベンション等や、アヌシー国際アニメーション映画祭（仏）、ザグレブ国際アニメーション映画祭（クロアチア）等の国際的な映画祭等を予定。



アヌシー国際アニメーション映画祭

【ゲーム分野】 GamesCom（独）や台北ゲームショー（台湾）等の世界規模で開催されるコンベンション等を予定。

【舞台芸術分野】 ルツェルン音楽祭（スイス）、ベルリン・フィルハーモニー（独）、ロイヤルオペラハウス（英）などにおける舞台公演等を予定。



ロイヤルオペラハウス

©Elisa.rolle

※文化施設による高付加価値化機能強化支援事業については6月20日で応募を締め切り、現在審査中です。

海外展開・国内外の発信の強化に向けた取組

課題

- ❑ 1億2千万人の相対的に大きな国内市場を前にして、リスクを取って海外に展開するインセンティブが生じにくい。人口減少の中で、我が国文化芸術の海外発信にも目を向ける必要がある。
- ❑ 我が国で評価される基準と海外で評価される基準が同一であるとは限らない。我が国において大きな注目を集めていなかったものが海外において評価される場合もある。海外の目線・価値軸を理解し、それを踏まえた展開を行なっていくことも必要。

海外展開・国内外の発信の強化

- 世界に誇る我が国のマンガ、アニメ、音楽、現代アート、伝統芸能等の次代を担うクリエイター等による一体的な活動を弾力的かつ継続的に支援
- メディア芸術分野振興の中核拠点としてのメディア芸術ナショナルセンター（仮）構想の推進
- 将来活躍が期待される未来のトップアーティスト等の海外展開に向けた国際的活動の総合的な支援
- 我が国の文学作品、マンガ等の翻訳家の育成を含む海外展開の支援
- 国際的なアートフェアの誘致等の拡大
- 文化芸術のデジタルアーカイブ化の拡充と配信・上映などの利活用の推進

取引等の適正化とDX時代への対応に向けた取組

課題

- クリエイター等は、構造的に発注者との関係において弱い立場に置かれ、事前に業務内容や報酬額、支払時期などが十分に明示されないまま不利な条件で業務に従事せざるを得ないことがある。
また、芸術家等の活動を支える文化芸術団体の役割・機能が重要。
- インターネット上には利用の可否や著作権者の情報が明らかでない著作物等が多く存在しているところ、これら著作物等の利用円滑化と著作権等の適切な保護を図る必要。
- AIと著作権の関係について、クリエイターと事業者の双方にAIの利活用に係る著作権侵害リスクについての懸念が存在。

取引等の適正化とDX時代への対応

- ガイドライン等の周知・普及や、「文化芸術活動に関する法律相談窓口」の体制強化、尊厳ある創造環境向上のため文化芸術団体の役割・機能等について有識者会議で検討
- 令和5年改正著作権法（著作物等の適法・円滑な利用に向けた新たな裁定制度の創設等）の円滑かつ確実な実施
- AIと著作権について、現時点における著作権法の考え方について、分かりやすい形での周知・啓発をするとともに、関係当事者間の理解促進に向けてコミュニケーションの場を設ける